

## 【令和5年度 授業改善推進プラン】

### 板橋区立桜川中学校

#### 【国語】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの学年においてもおおむね落ち着いた学習態度が見られ、基礎基本の学力が定着している生徒が多い。</li> <li>○語彙が不足していたり、文章の構成に苦手意識があったりして、記述式の課題に粘り強く取り組むことができない生徒がいる。</li> <li>○言葉の特徴や決まりを身につけることはできていても、それを活用して文章を読み深めたり、物語の描写や筆者の論拠に即して考えを書いたりすることには課題が見られる生徒が多い。</li> </ul>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎知識を活用する力を養い、読解力や表現力の伸長を図ること。</li> <li>○目的や意図に応じて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けること。</li> <li>○文章を書くことで考えを深めようとする態度を養うこと。</li> <li>○知識や見聞を広めて物事を多面的に捉え、良識や常識の中で自らの考えを整理して表現できる力を培うこと。</li> </ul>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間「ねらい」や「振り返り」の内容を明確にし、生徒が学習の流れを把握した上で授業に取り組めるようにする。</li> <li>○様々な文章を読み多様な語句に触れることで語彙力をつけ、文章の内容を正確に読み取れるようにする。</li> <li>○授業・単元の振り返りを書く活動を通して、自分の考えを深めながら適切に表現できるようにする。</li> <li>○ICT機器を効果的に活用し、視覚資料の言語的理解を高めるとともに、生徒の間で学びあう機会を設け、他人の考えを取り入れ自分の考えを広げられるようにする。</li> <li>○必要に応じて小テストを行い、知識の着実な獲得・定着を目指す。</li> </ul>

#### 【社会】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○忘れ物や私語などは一部の生徒に見られるが、授業にまじめに取り組む雰囲気がある。</li> <li>○教師の発問に対して返答ができているが、生徒の社会の動きについての関心や知識についての差が大きいため、活発に発言する生徒が固定化している。自ら考え、理解を深めようとする姿勢を育てる必要がある。</li> <li>○中学校になって社会科が好きになった生徒も多く見られる。</li> <li>○世界・日本の主な地域の特徴、日本の各時代の特徴、日本の社会についての知識や基礎的な習熟に、大きな差があることが課題である。</li> <li>○小学校で行っている人物学習と中学校で行う通史の学習へのつながりをスムーズにすることが課題である。</li> </ul>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業内容を分かりやすく説明し、基礎学力の定着を図ること。</li> <li>○視覚教材・プリント・資料集などにICT機器を有効に活用することで、生徒の関心や理解をより高めていくこと。特に映像を使うことで理解が深まることが多いので、映像を利用する。その一方で、教科書の読み、文章や自分の考えを書かせる指導も並行して必要である。</li> <li>○基礎学力の充実を図り、成績が伸び悩んでいる生徒の学力を伸ばすために、教科書にはない面白さに気づかせ、進んで学習する生徒を育成すること。さらに、基礎的知識の習得のために、小テストを実施していくこと。</li> <li>○レポートやスピーチを通して、調べ、思考し、表現する力を伸ばすこと。</li> </ul>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できるだけ興味を引く資料を用意し発見や考察ができるようにする。</li> <li>○小学校での学習事項を基にして導入を行うだけでなく、小学校段階の知識がどれくらい知っているかを見極めることなど、一方的な説明に陥らないよう発問を工夫し、生徒が発言しやすい環境をつくる。地理、歴史ともに小学校の学習内容が中学校の内容につながるように、発問を工夫し、小学校での学習内容を確認しながら授業を進める。</li> <li>○小テスト・ワークや前回の授業の復習の機会を設け、知識の定着を図る。</li> <li>○日本の都道府県、地形、世界の国名、地形、日本の時代名、主な人物名、基本的</li> </ul>

	<p>な重要語句など基礎的な内容の確認テストを各学年で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スピーチや世界の国調べ、歴史新聞などで、自分の考えをまとめ表現する力を育成する。また、新聞等の活用により社会の動きに対する関心を高める。</li> <li>○投影機や動画資料などのICT機器の活用を通し、生徒の関心を高め、理解を深める。特に投影機では、どの資料を見るのかを、適切に指示できるように活用する。動画資料は、見せっぱなしではなく、その時その時に、解説を加えながら見せるように心がける。</li> <li>○レポートや新聞を相互に評価させることによって生徒の意欲を高めるとともに、互いの考えや技能に触れあい、より深い学びになるよう指導していく。</li> <li>○特に、都内巡りや修学旅行の事前学習は社会科の学習内容と結びつけて行くことが必要である。</li> </ul>
--	--

## 【数学】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年とも、忘れ物や私語などは一部の生徒に見られるが、授業中うなずいて話を聞くなど、真面目に取り組む雰囲気がある。</li> <li>○教師の発問に対して挙手して返答する形ができているが、活発に発言する生徒が固定化している。</li> <li>○全国学力調査では、知識・技能、思考・判断・表現ともに若干下回っている。</li> </ul>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の習熟を図るため、問題演習の時間を十分に確保すること。</li> <li>○数学に対する生徒の主体性や表現力を育むこと。 特に、解答に至るまでの過程を口頭や筆記で発表する時間を設けること。</li> <li>○習熟度別の指導形態を活かし、生徒に応じて指導内容を配慮すること。</li> <li>○全国学力調査の結果より、自然数の知識、空間における問題、説明や証明に課題が見受けられた。まずは概念の徹底と、それを十分に思考して問題を解けるようにするための時間を確保していく。</li> </ul>
<p>■授業革新推進に向けた具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着を図るため、既習事項の確認を反復して行う。</li> <li>○基礎・基本の定着を図るため、プリント等の問題演習の時間を確保する。</li> <li>○生徒の主体性や表現力を育むため、解答に至るまでの過程を説明する機会を設ける。</li> <li>○発問の仕方を工夫し、生徒の習熟度に応じた指導を心掛ける。</li> <li>○一人一台の端末を活用し、空間図形の課題の解決につなげる。</li> </ul>

## 【理科】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題に対して前向きに取り組む生徒が多く、授業態度は良好である。</li> <li>○基礎的な知識については積極的に発言する。予想や考察などの自分の考えを記述することはできるが、発言し、話し合っより発展的な内容への深めることに困難を感じる生徒がいる。</li> <li>○「理科の授業内容はどれくらいわかりますか」という問いに対して“どちらかと言えばわからない”“ほとんど分からない”と回答した生徒が7年生で6%、8年生で26.7%、9年生で31.6%いる。</li> </ul>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者の意見や教科書の知識などの情報を適切に整理し、科学的に思考することを通して、疑問や課題に対する自分なりに考え、表現できるように支援する必要がある。</li> <li>○2学期以降も理科室での観察・実験を通して、実物に触れたり、自らの手を動かしたりする経験を通して、生徒の興味関心を高めたい。</li> </ul>
<p>■授業革新推進に向けた具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の興味関心を高めるために、身のまわりの自然事象と学習内容の関連づけ機会を増やし、理科を学ぶことの意義や有用性が実感できるようにする。</li> <li>○身のまわりの自然事象における疑問や課題に対して、主体的に考え、根拠とともに自分の意見を表現し、生徒同士で意見交換をする機会を設ける。</li> <li>○授業の「ねらい」や「流れ」、授業の要点の「まとめ」を明確に提示する。</li> <li>○問題解決を意識した「ねらい」を明確に提示し、学習内容を生かして探究的な学習を行う場面を意図的につくることで思考力を育む。</li> <li>○基礎的な知識を身につけさせるために、電子黒板を効果的に活用し視覚的にわかりやすい教材の提示を行い、グラフの読み取りや概念のモデル化、データの比較を丁寧に行い、理解を深める。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別にノートの指導や知識の定着を確認し理解不足なところを補強するための問題演習を行う。また、生徒自らが学習を振り返る自己評価を行うことで自己調整力を養う。</li> <li>○一人一台端末を活用し、生徒が自分の考えを表現させ、他者との意見交流や協働学習を通して、より深い学びにつなげる機会を確保する。</li> </ul>
--	---

## 【音楽】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽に対し、興味をもって積極的に活動する生徒が多い。</li> <li>○歌唱表現においては、楽しい雰囲気を感じながら伸び伸びと取り組む生徒が多い。</li> <li>○自分の考えを発言する、文章でまとめる、自分のイメージした音楽を文章や絵で書き表すなどの活動に、積極的に取り組んでいる。</li> </ul>
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽のもつハーモニー・美しさを深める表現活動の工夫。</li> <li>○歌詞を深く読み取り、言葉のもつ美しさを感じ取り、その言葉を表現するための発音を工夫する。また表現する楽しさを体感するよう、感受性を深めていく授業の展開をする。</li> <li>○器楽分野においては、ギターや箏に取り組んでいる。基礎的技術の習得にかける時間を確保し、発表の場においてその成果を共有する。</li> <li>○鑑賞、表現活動、創作において、能力に個人差がある。</li> </ul>
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題や内容を明確化し、何を学ぶのかを理解させてから活動する。</li> <li>○生徒が主体的に活動し、各々が表現しやすい環境作りを心掛ける。</li> <li>○楽しく学習しながらも、各題材において基礎的な知識や楽器の奏法などを身に付けていく教材の開発を行う。</li> <li>○個人の活動（鑑賞や創作）や全体（集団）での活動（器楽・歌唱活動における合奏や合唱）をバランス良く取り入れる。</li> <li>○自己評価カードを使い、技術の向上を確認させる。質問・感想などの毎回のコメントから、より興味をもって授業に臨む気持ちをふくらませていく。</li> <li>○タブレット端末を有効活用する。</li> <li>○個人の活動においては、机間指導を適宜行う。</li> </ul>

## 【美術】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年による差異はあるが、概ね落ち着いて授業に取り組むことができる。</li> <li>○半数の生徒は指示されたことを理解しながら取り組むことができるが、半数は趣旨や手順の把握に時間がかかり、作業的な活動になる事がある。</li> <li>○主体的に工夫する、自己の表現として発展させるための創造的な技能の習得については生徒により差が大きい。また、作品に込めた意図や造形的な工夫を言語表現することに課題がある。</li> </ul>
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の課題と趣旨を明確化と、授業ごとのめあてと作業手順の伝え方。</li> <li>○個の作業速度や作業量の差に応じた適切な時間数の設定。</li> <li>○構想の段階や鑑賞活動で共同的な学びを取り入れ、見方や考え方を広げたり深めたり出来る指導の充実と言語活動の充実。</li> <li>○ICTを活用した教材研究と、メディアリテラシーについての指導を充実させ、個別最適化を目指す。</li> </ul>
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の導入時に関連する作品の鑑賞や社会との繋がりを感じさせ、制作の趣旨や流れを具体的にイメージさせてから制作活動に取り組む。授業の始めに、本時の目当てを板書し、工程目標などを明確にして作業させる。</li> <li>○作品サイズや工程を厳選し余裕を持った時間設定を行う。生徒自身が制作の見通しを持って作業計画を立てられるように作業時間を明示し、授業ごとに作業目標を伝える。放課後や長期休業を活用した補充時間を設定する。</li> <li>○一方的な指示や指導ではなく、生徒同士が共同的な学びを通して、より良い工夫を発見し、制作に反映できるような鑑賞、言語活動を取り入れる。</li> <li>○タブレット端末を活用し、授業中や家庭でも調べ学習、制作手順の動画の視聴、スライド資料の見直しが個々のタイミングで行えるようにする。</li> </ul>

## 【保健体育】

<p>■生徒の状況</p>	<p>○運動が好きで、積極的に取り組む生徒が多い。          ○運動が苦手な生徒にも努力する生徒が多い。          ○昨年度は、体カテストのデータを全国平均・東京都平均と比べると、平均と同じ水準である。          ○運動の特性を理解し、言葉やジェスチャーで表現し、生徒同士で教え合いをすることができる。          ○幼少期から続けているスポーツに関しては優れた能力を発揮できるが、それ以外の種目に関しては習熟に課題のある生徒がいる。          ○忘れ物が多く、習慣化に課題のある生徒がいる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>○各単元を学ぶ楽しさを味わわせること。          ○生徒同士の教え合いや学び合いの楽しさを味わわせること。          ○運動量の確保をすること。          ○体力向上を加味した授業計画を立てること。          ○忘れ物や見学をさせない指導の工夫が必要なこと。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○生徒自身が見通しをもちながら授業に取り組めるようにする。          【カード・ホワイトボード・VTR・写真・タブレット端末等の利用】          ○運動の特性を生徒に理解させ、個々やチームで共に学習する仲間の課題を解決し合う学習活動にする。          【運動能力・練習方法・チームワーク・技能・準備片付け等】          ○体づくり運動を毎時間行い、運動量の確保と基礎体力の向上へとつなげていく。          また、各単元の学習で補強運動等を実施し体力づくりにつなげる。          ○生徒同士が互いに学習し合うことの楽しさを味わわせる。          ○忘れ物や見学に関し、個別指導を継続する。また、保護者と連携し、対応していく。</p>

## 【技術・家庭】

<p>■生徒の状況</p>	<p>○生徒は授業に落ち着いて取り組むことができている。          ○男女を問わず、教科への関心や意欲が高い生徒が多い。          ○課題に直面した際、誰かに聞いて解決しようという場面が多く見受けられる。          ○家庭での生活体験の減少や便利で豊かな生活への変化により、生徒の基本的な生活力が低下している。また、ハサミやカッター、包丁など刃物の基本的な扱い方を知らない生徒も見受けられる。          ○携帯電話やスマートフォンの扱いに慣れている生徒は多いが、パソコンの操作については文字の入力、マウスの扱いなど定着に課題がある。          ○学習で理解したことをまとめる能力は充分ではない。記述式の学習の振り返りや感想を書く力に課題がある生徒が多く見受けられる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>○生活の中で必要な、基礎的な知識や技能を定着させるためには、基本的な事項を繰り返し体験することが重要である。しかし、授業時数の減少により繰り返し学習する時間の確保が難しい。          ○課題解決能力や、工夫や創造する能力を育てるためには、失敗→解決方法を自分で考える→課題を解決、という作業の繰り返しが必要であるが、授業時数が多く必要となる。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○一人一台端末を活用し基礎的・基本的操作能力を身につけさせる。一人一台端末を活用した演習や調べ学習、資料提示等を積極的に活用する。          ○生徒の興味・関心、理解を高めるため、ICT機器、視聴覚機器を積極的に取り入れ生徒の視覚や音声に訴える指導を行う。          ○まとめ学習、協働学習ツールを利用した言語活動を取り入れる。          ○授業内で作品が完成させることができるように余裕をもった課題設定を行う。          ○長期休暇などに課題を設定し、学習した内容を生活の中で実践し身につけるようにする。</p>

## 【外国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>○多少課題忘れなどはあるが、授業を大切に、真面目に取り組もうとする生徒が多い。</p> <p>○基礎的な学力や理解の能力について個人差があり、苦手を感じている生徒も半数程度いる。</p> <p>○家庭学習の習慣が不十分で、得た知識を定着・発展させることに課題をもつ生徒がいる。</p> <p>○英作文に時間がかかる生徒がいるが、最後まで仕上げる努力をしている。</p> <p>○（感染対策で1学期は十分できなかったが）やりとりや発表活動など話す活動も意欲的に取り組める生徒が多い。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>○生徒が意欲的に取り組めるよう、課題の提示を明確にする。</p> <p>○ Input と Output のバランスをとりながら、習熟する活動を多く取り入れる。</p> <p>○クロムブックを活用した家庭学習も推奨する。</p> <p>○書くこと、話すこと等、表現力を高めていく指導を継続していく必要がある。</p> <p>○論理的に判断させる読み取りや聞き取り課題などにも挑戦させる必要がある。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○教え込み型ではなく、生徒がポイントを発見できるような形で課題を提示するよう工夫する。</p> <p>○授業の終わりに、振りかえりの時間を設定する。</p> <p>○家庭学習での努力を十分に評価し、生徒にフィードバックするシステムを確立する。また、家庭学習を行ったことにより、自分の理解・表現が深まったと実感できるような課題を出していく。</p>

## 【総合的な学習の時間】

<p>■生徒の状況</p>	<p>○進路学習を通し、個人で課題をもち、意欲的に学習に取り組める生徒が多い。</p> <p>○見通しをもって学習に取り組むことに課題のある生徒や、きまりを守って協力して学習するという意識をもって取り組むことに課題のある生徒がいる。</p> <p>○学年が上がるに従い、発表がうまくなっている。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>○意欲的に課題を見付けさせるための指導方法の工夫。</p> <p>○課題解決のための見通しをもたせるための指導方法の工夫。</p> <p>○課題を解決していく過程の意義を生徒に実感させるための指導方法の工夫。</p> <p>○クロムブックを活用した調べ学習を実践する。</p> <p>○生徒一人一人の特性をつかみ、集団の中で役割を果たすことの成就感を味わわせるための指導方法の工夫。</p> <p>○生徒の自主性を伸ばさせる取り組みを実践する。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○課題解決学習に必要な資料や学習方法としてクロムブックを活用する。</p> <p>○適時レポート提出や発表の機会を多く設ける。 【学習の道筋を再確認・今後の見通しの再設定等】</p> <p>○学習後の発表の機会が、学年内でおさまってしまうので、全校での発表の機会を設ける工夫をする。</p>

### ■ その他（言語活動の充実等）

○全校で毎朝10分間の朝読書に取り組み、文章・言語に親しみ、慣れさせる。

○各教科で、「読む・聞く(見る)・話し合う・まとめる(書く)・発表する(実践する)」を重視した授業を展開する。